

たきこみごはん

全国福祉保育労働組合
東海地方本部障害協議会NEWS
2007, 3, 17
Vol. 13

たきこみごはん 最多投稿賞
河辺さんです!

障害協議会NEWS、「たきこみごはん」を作り始めて、原稿を集めることの大変さを痛感してきました。そんな中で、分会のことや、たきこみごはんの感想など、何度も投稿して下さったみなと福祉分会の河辺さん。今回は河辺さんのあたたかい手書き文字のまま載せてみました。組合を通してつながる仲間に、河辺さんのパワーが届きますように!

毎回国交の心構えと全員国交 2007.3.14

おたけ福祉会
河辺 忠

あたたかい心構えをもち、春を迎える季節が文化の大好手です。
また、どの職場でも春闘の時期が近づき、分会は08春闘の前
1ヶ月の大きな闘いがあつた。それは、07春闘 での上半期決算
の状況と対し、一時金(3.5ヶ月+前10分)を協議する、と確認書をお出し
いた。組合の決算分析をし、
1ヶ月分の 上を要求した。回答としては「ゼロ」として。
3/2には1回目の国交。昨年とは違い、前ハタマキを伺った。
長時間非常勤のメンバーも含め、多くの仲間が結集し 分会バス
で進出した。その日の理事会の提案は、「0.2ヶ月出す」とい
うことでした。組合としては 中野が、「1ヶ月が無理なら、0.5ヶ月は出す
0.7ヶ月出すと0.5ヶ月出すの理由を明確にせよ」と伝え 終了。
そして 3/11に 2回目の国交。前回発言できなかったメンバーを100%
全員やる気満々で伺った。冒頭、理事側は提案は
「0.5ヶ月支給する。新賃金表の論議に移す」ということでした。
意見を出していた私たちが、びびり、ドラマチックな国交ではなかった
けれど、長時間非常勤職員も含めた内容が、分会
でまとめることになりました。そして 国交の場で 08春闘の要求書
を手渡しました。この国交を勝利に導いたのは、事前の打ち合わせ
がきちんとしていたこと。多くの仲間が結集したこと、「団結が力」
そして 意志統一し 一人一人が主体的にのぞいたことだと思っております。
「全員国交」ができたことを誇りに思い、08春闘に向けて
いこうと思っております。おたけ福祉会に おんげ!!

先回の障害協議会(2月18日)は、障害・高齢職場で働く皆さんの合同職場交流会でした。みなと福祉分会しおかせ作業所の鈴木さんから交流会全体の報告、そしてきそがわ分会の三浦さんより感想が寄せられました。

<障害・高齢職場 合同職場交流会(2008年2月18日)報告>

当日は16人の参加で、レポート報告と討論を行いました。各分会からの報告は以下の通りです。

○**デイサービス星崎**

節分の取り組みとおやつ作りに取り組んだ。人間関係は良好だが、腰が痛くて仕事を続けられない人が続出。

○**なごや介護労組**

「予防介護」が入り、介護1から要支援1～2になり、時間が制限されることに。ヘルパーが入っても次から次へとやめていく。メンタルの問題を抱える職員が多い。女性が多い職場である。ヘルパーが医療行為に関わらざるを得ない現状がある。

組合が要求を勝ち取りすぎると事業所つぶしになるかもという不安があるので、大本の原因である国が介護報酬を制限しているという現状を打開したい。

○**すずかけ**

支援費制度になって人件費率が109%になり、給料改定で平均25%カットに。メンタルの問題は出ていないが、給料は減って仕事量は増えた。応益負担をなくす運動を強めたい。

○**イルカ**

所長が月初めの朝礼で「先月の営業成績は…」というようになった。利用者が増えて職員が減った。職場は殺伐としている。若い職員の入れかわりが激しい。日中活動だけではなく、ホームの土曜日曜の調整などが増えた。「うちはあんなに払ったのに、あの人は払っていない」という声を聞く。負担させるほうがおかしい。男性の「弄退職」が多い。

○**きそがわ**

県職員にあわせて住宅手当・扶養手当があがった。若い職員の俸給があがった。

●**討論**

介護保険と障害者自立支援法の統合論は下火になっているが、統合したら介護保険は破綻するだろう。保険料不払いが増えるだろう。応益負担は、利用抑制と介護保険との統合が垣間見える。介護予防は元気になって単価が下がる。介護保険が始まって、社協を含めて営利目的にされた。

◎国の施策の問題が一番大きい。私たちがこの状況を打開するにはどうしたらよいか？

ヘルパーさんの状況をアンケートなどで出したい。介護職場は市単独補助が少ない。介護労働者の視点で要求を上げていきたい。高齢者にとって、介護保険は何度も見直しがあってわけ分からない。社会的認識が足りない。世論に対して何かしたい。民主党が特別措置法案を出していることもあるので、3月5日の中央行動はぜひみんなで行こう。(この報告は次号にて)

一編の詩をあなたに

日々あたらしく

新川 和江

大地に深く根をおろした木が
千の若枝を持っていることにおどろく
風のことばを聞きとる
万の柔らかな耳を持っていることにおどろく
はりめぐらされた血管に
あたらしい血を送りつづけて
倦むことを知らぬ 根のいとなみ

わたしたちの棲むこの天体もまた
宇宙のなかで
くるりと弾んで回転する
表情をあたらしくする

はつらつとした鼓動が背中に伝わるので
おはよう！わたしたちも
元気にはね起きずにはいられない
手足を うごかさずにはいられない

太陽を空へ打ち上げたら
野へ草摘みに出かけよう
海へ さかなを獲りに出かけよう
働くことをいとわぬ
すこやかな心とからだに
大自然が
与えてくれる この一日の糧

新川和江詩集『それから光が来た』より

<編集後記>

今回の詩は、新年度に向かう気持ちで選んでみました。
急に春らしくなり、職場の桜のつぼみがふくらんできました。
子どものころはこの時期週末になると、家族で山に行き、
つくしやわらびを摘んだことを思い出します。田んぼの畦では
のびるやせりを摘み、春の味を楽しみました。年度の変わり目
で忙しい毎日ですが、道端の小さな花や風のぬくもり・・・
そこかしこに散りばめられた、春の息吹を五感で受け止め、
楽しんで、新しいスタートを切りたいです。みなさんの声をお
待ちしています。 K

